

# 2010 ISSE 常滑カンファレンス報告書

2010.07.13-19



TSIE

## 2010 ISSE 常滑・カンファレンス 報告

TSIE 会長 福田 泰造

7月13日(火) ー第1日ー

2010 ISSE 常滑カンファレンスは7月13日(火)、殊の外蒸し暑い梅雨空が恨めしい中で始まりました。開会式は、加藤常滑市教育長、常滑ライオンズクラブ杉江会長を来賓として迎え、各国の代

表者による国旗入場から始まり、笑顔の中、参加者は前回の COSTARICA・カンファレンス以来の再会を楽しんでいました。参加者



はアメリカ2名、オーストラリア1名、インド2名、マレーシア2名、メキシコ6名、コスタリカ2名の15名(日本を除く)です。今回はアジアでの開催ということでコスタリカ・カンファレンスに参加出来なかったインド・マレーシアからも参加者があり国際色豊かなカンファレンスの始まりです。

TSIE ではこの日の為に、昨年から準備委員会を立上げ、月に一回の委員会でさまざまな角度から「おもてなし」を準備してきました。中でも、自称「風呂敷ダンサーズ」によるお土産の風呂敷の使い勝手パフォーマンスは会議で緊張していた空気が一転、大きな笑いを誘い、より一層の交流を深める効果があったと思います。

会議では冒頭、ベヴ会長から初日のアジェンダ(議題)の説明があり、特別に日本(TSIE)の問題から話し合われることになりました。これは、TSIE の都築副会長が一日前、AU ホテルで ISSE のベヴ会長とした打合せをした結果であり、日本のイレギュラーなやり方に対する解決方法を見出そうとする ISSE の配慮からだと思います。そのアジェンダとは、以下の通りです。



1. 日本(TSIE)と他国との ISSE プログラムへの参加形態の違いについて
2. 日本(TSIE)のプログラムのあり方に他国が疑問をもつことについて(言い換えれば日本が二年で派遣・受入プログラムを行う問題。日本以外の国は1年で派遣・受入を実施)
3. 日本(TSIE)は初めての国と交流する場合、必ず下見をするがその必要性について
4. 日本(TSIE)の小学校は9校と聞いているが現在4校が ISSE に参加している。

残りの5校について（どこに行ってしまったのか？）

5. 日本（TSIE）は英語圏との交流から一歩進みスペイン語圏（メキシコ・コスタリカ）との交流を始めたこと（交流が拡大してきたこと）について

6. 日本（TSIE）の派遣事業の時期（現在8月の夏休み期間中のみ）について

以上のアジェンダについて議論されました。

1. 2. についてはいつものカンファレンス同様、日本（TSIE）の状況を福田が以下の通り説明

この問題は過去のカンファレンスで何時も問題となってきました。日本の現状はTSIEのスタッフが全てボランティアであることを先ず理解してほしいと思います。他の国が1年でプログラムを完結するのは充分、分かっています。ここでISSE側（ベヴさん）から以下の提案



—TSIEからの意見を調整してベヴさんが日本（TSIE）の異なった2校と他の国1校の交流（日本の2校は派遣・受入の何れかを行い他の国の1校と交流、次の年には日本の2校が派遣・受入を逆転して実施、他の国は別の1校を選出）の提案がなされました。—

ただ、以上の提案はかつてTSIE役員会にて都築さんが発表した神算鬼謀のもので、3月に行われた加藤教育長とTSIE役員懇談会ではこれまで通りとの結論でした。TSIEではこうしたISSEカンファレンスで取り上げられる問題点について日本の先生方、教育委員会に聞いてほしいため日本でカンファレンスを開催しましたが、ご覧のように日本の先生方、教育委員会はだれもこの席にはいません。もしかしたら、国際交流はあまり必要ではないと考えているのでしょうか。彼らは、夜のウエルカムパーティには必ず出席するので、その席でベヴ会長に是非、意見交換をして頂きたいと思います。

3. の下見について、ベヴさんから次の意見がありました。下見の費用はお金をドブに捨てているようでもったいない。もっと、ISSEメンバーの学校を信頼するべきです。もちろんTSIEでは承知しています。ただ、下見をするのは子供達の安全安心に配慮したTSIE（保護者、学校、教育委員会も含む）の総合的な判断だということを理解してほしいと思います。私達は決してお金をドブに捨てているわけではありません。こうした日本の事情をISSEの皆さんが理解できたかどうか疑問です。



4. については実行委員会の構成が出来ない学校事情と ISSE 加盟以外の学校（マレーシア：カマルディン窓口・タイ）との交流について理解を求めました。

5. については、ISSE プログラムは英語圏・スペイン語圏など言葉の壁を越えた文化交流であることが強調され、日本の拡大（コスタリカは本年から）をある程度評価しながら、今後も、もっと TSIE は門を開いて多くの国と文化交流をして欲しいとのことでした。

6. については派遣を 8 月に限定するのではなく、派遣時期に対して、もう少し柔軟性をもたせて欲しいことを、以前 1 回だけ交流した徳島の小学校（その時は 8 月以外にアメリカに遣ってきた。只、TSIE も過去 1 回春休みを利用してアメリカに派遣の実績があるが多分ベヴ会長は知らないと思われる）の事例を紹介して強調しました。

会議終了後は日本式弁当ランチで腹ごしらえをして、小雨の中、焼き物散歩道の散策



を楽しみました。途中、訪問した「滝田家」ではサプライズ（予約なし）訪問ということで急遽、教育委員会から連絡を入れて頂きましたが、観光課への連絡が遅れ何故かお叱りを受ける結果となりました。タテ社会の人間関係（中根千枝著）が言われて 40 年あまりですが市役所には

まだこのようなヒエラルキー体質が残っているのが現状です。夜はタイル博物館に場所を移してウエルカムパーティで「おもてなし」です。片岡市長さんも合流され TSIE 特有の和やかな雰囲気での素晴らしい交流のタベでした。そんな中、加藤教育長とベヴ会長は、午前中の問題提起（TSIE 2 校・ISSE 1 校の派遣・受入を 1 年で実施）についてホットな意見交換を行いました。

7月14日（水）—第2日—

二日目の会議は場所を南陵中学校に移して行われました。アジェンダは以下の通りです。

1. ISSE 会計報告について
  2. Web サイトについて
  3. カントリーレポートについて
  4. US ビザの取得について
- 以上、について議論されました。

1. については会計報告書が配布され異議なく承認されました。只、会費などの振込先については、シンシナティでもコロラドでもよいが、支払い情報（どこの学校をカバーしているか等）の詳細を分かりやすく教えて頂きたいとの注文がありました。

2. については、出席者がコンピューターの前に集まって新しくなった ISSE の Web サイトについてベヴさんから説明を聞きました。先ず、変更された Web サイトの紹介があり、新しい情報が次から次へ入るようにしたこと、分かりやすくしたこと等について説明がありました。アップロードについては、自分で行うかベヴさんの方でするかはどちらでも可能ですが、ベヴさんに送ればホームページに載せて頂けるとのこと。只、皆さん自身でやって頂ける方がよいとのこと。こうして皆さんの体験談はどんどん更新されてゆきます。又、情報によっては読んでほしくない情報もありますのでベヴさんがチェックして載せません。例えば、スペルを間違えたり、表現が難し過ぎるものについてはベヴさんの方で訂正して載せます。もちろん、ちょっとはばかれる情報についてもベヴさんがチェックします。次に、加盟国についてはここを開いて下さい。現在、ISSE に参加している国や子供についてみて頂けます。細かく言いますと、オーストラリアの7校は同じ州にあります。

インドの3校は2つの地域（ラクナウ・デリー）でアメリカは3州、10校でコロラド・オハイオ・ペンシルバニアです。これは上段の写真を見て下さい。次の項目はこんなことをして欲しいといった情報を掲載しています。又、ハンドブックとしてやってはいけないこと、やってよいことが出てます。会議で話し合っ欲しいことも此方のページに載せます。前回の会議でスケジュール、フォームについて ISSE 特有のフォームにしましょうと言うことになりました。ISSE、パスワードを入手して頂き載せて下さい。これについてはオーストラリアのシャロンさんにデモンストレーションして頂きます。ログイン、パスワードを重視してこちらの画面を出します。見て頂けますか。

3. のカントリーレポートに進みます。先ず、コスタリカを代表してコスタリカレポートを紹介します。私達は 1988 年—1989 年から交流プログラムに着手して以来パーフェクトな形で事業を進めてまいりました。コスタリカでは3校（セント・アンソニー校、サンポール校、セント・ピーター校）が登録していますが、セント・ピーター校は経済的な理由で様子見をしています。2012 年以降の再開です。そして、このたびコーディネーターのジェイミー・アマドールさんが退職されました。この会議が終わって、帰国してから3校間で話しあって次のコーディネーターを決定します。長年、務めたジェイミーさんの手紙を代読させて頂きます。「ISSE の友人に心よりお礼申し上げます。皆さんと一緒に働いたことを光栄に思います。新しい文化を知りそれを橋渡しし、ホストファミリーと会い、子供達に会うことは、私にとって視野を広げる大変貴重な場となりました。間違いなく皆さんは特別なグループです。ISSE の将来に大きな成功があることを祈念しています。皆さんに神のご加護あれ。」以上がコスタリカのカントリーレポートです。カントリーレポートは其々の国で作成したものを ISSE に提出（もちろんジャパンレポートも提出済みです）し

てます。

次は良い報告をします。メキシコ、コスタリカは共通の言語を話しますが文化はそれぞれ特有のがあります。ISSEの交流は言語交流ではなくて文化交流であることを伝えたいと思います。

4. のUSビザ取得については前回の会議でもアジェンダになりました。同時多発テロ以降、アメリカではビザの取得が困難になりました。その対策として、先ず、ISSEのレターケース・の入ったもののコピーに情報を下さい。例えば、訪問先の子供の名前、引率者の名前などを私（ベヴ）の方に送って頂ければ、その主旨を説明したり大使館に送ったりして取得できるように努力します。個人的に上院議員に知人がいるので政治的な働きかけもします。こうして、早くビザを取得できるようにしたいと思います。（福田が日本のスタッフに以下を説明：私達日本人は、アメリカはもちろんのこと、どこの国のビザもいりません。他の国がアメリカとの交流をこのように苦労して実施している事実を知って下さい。我々はビザがいらないのに現在、アメリカとの交流は行っていません。）

次に、ビザ取得に関して、参考までにコスタリカではやってはいけないことを紹介します。アメリカに行く時は単にアメリカに行くという説明だけで、決して交流プログラムを行うために行くという言葉を出してはいけないことにしています。交流プログラムという言葉を出すとたった3週間の交流なのに記入しなければいけない書類に記入を求められ多くの書類を付け加えなければなりません。このコスタリカの代表の意見は大変良い意見だと思います。どの国へもISSEに関しては観光ビザで行くことにして、交流プログラムについては言わなくてよいということを頭に入れておきましょう。

第二日目の会議では、以上について話し合われました。会議終了後、南陵中の女子生徒と早川先生による日本文化体験ということで、琴の練習風景と演奏をして頂き、皆さん大変興味深く鑑賞していました。演奏終了後は琴の演奏体験までさせて頂きました。その後は学校給食（ランチ）の体験です。こちらも大変興味深く味わったのではないのでしょうか。こうした初めてづくしの体験は国に帰ってから其々の小学校で報告されるでしょう。

午後は市長表敬訪問です。最初は緊張感から堅苦しさもありましたが、片岡市長の人柄もあって徐々に打ち解け、遠慮ない質疑応答には返答するのに困惑するほどでした。特に質問が焼きもの散歩道に見られる屋外展示物は盗難に遭わないのですか、セキュリティは

どうしていますか、日本には泥棒はいませんかの質問



には、皮肉なことに、某小学校の事務長の横領事件が当日の朝刊に取り上げられていたこともあり大変痛いところを突かれたようで冷や汗が出



る思いでした。当日は市長執務室も見学させて頂き満足な市長表敬訪問であったと思います。この日の夜はTSIE派遣団の結団式です。本年は、三和



小学校がタイのプラサーンミット小学校、常滑東小学校がオーストラリアのロービル小学校へ派遣事業を行います。ISSEの皆さんにも特別ゲストとして出席して頂き、これから派遣される児童・リーダーの豊富紹介やカルチャーショーを見て頂きました。終了後、やや遅めの夕食です。希望者を募って、「常滑屋」でのディナーの夕べは会議疲れも忘れて大いに盛り上がりました。ISSEは子供も大人も言葉の交流ではなくて文化交流だと思います。会議疲れと時間を忘れた親睦に睡魔が襲い明日の会議に備えて皆さんそっとおやすみなさい……………。



#### 7月15日（木）－第3日－

この日の会議は西浦北小学校が会場です。会議も大詰めとなり、本日のアジェンダは以下の通りです。

1. マレーシア及びメキシコレポートについて
2. 世界情勢に鑑みた ISSE 交流の地域分けについて
3. 2011年～2012年のマッチングについて
4. 次回開催について
5. その他など

以上について議論されました。

1. については、マレーシア代表の Tan 校長先生から、昨年  
の新型インフルエンザで事業中止  
でしたが2010年は事業再開  
しましたとの報告がなされま  
した。次に派遣児童及びリー  
ダーの心がけがよい方に  
変化してきたので将来の  
強みが出てきたことや、  
今回のカンファレンス



で日本の学校を見学して学ぶことばかりでよい経験をさせて頂きましたとの報告がありま

した。只、マレーシアの学校は 2000 人程度で日本と比べて規模が大きいです。日本の場合、学校の規模をもう少し考えた方がよいのではといった意見も出され、更に、日本の学校から学んで我々の学校もよりよくしたいと言った意見が出ました。

2. については、2011 年と 2012 年については、世界の経済情勢などから地域を 2 つのエリアに分けてそれぞれの地域の交流にしたいとの意見が ISSE から出されました。もちろん、お互いの理解、同意があれば地域間でなくてもよいと付け加えられました。

そのエリア分けは以下の通りです。

#### 第 1 エリア

オーストラリア

中国

日本

マレーシア

#### 第 2 エリア

メキシコ

アメリカ

コスタリカ

エクアドルなど中南米

3. 日本のマッチングは初日の教育長との話し合いもあり、2 校（日本）・1 校（他国）で 1 年で交流・派遣事業終了です。それではくじ引きに入ります。

### 2012 年

常滑東小学校・小鈴谷小学校 — Wan Tang 小学校（中国）

西浦南小学校・大野小学校 — City Montessori 小学校（インド）

以上はくじ引きで決定された日本（TSIE）の交流相手校です。くじ引きはエリア分けで行われました。

それと、オーストラリアからリージェンシー小学校が外れているとの指摘がありましたのでこれからスーさんに e メールして外れないようにしたいと思います。

マッチング相手と派遣ができなければ、受入だけでもする努力をして下さい。その年の交流が潰れた場合はマッチング消滅です。繰越はありません。ペナルティはお願いしますが繰越はありません。交流途中でのキャンセルは半額 75US ドル（ペナルティフィ）です。



エリア分けについて、第 1 エリア・第 2 エリアとの交流はお互いの同意があっても駄目でしょうかという意見がありました。これに対して会議では経済的な理由でエリア分けを決定しました。皆さんは代表として会議に出ているわけですが、この場に来ていない人もいるのでここで決定はできません。次に新しい学校が中国とアメリカ・シンシナティで手が挙がりました。ホストオンリー希望ですが、派遣したい学校がありましたら連絡して頂きたいと思います。先ほどのエリア内での交流について多くの国がエリア内での交流を希望しています。2012 年以降もエリア内で続けるか話し合ってください。2012 年以降、トピッ

くなのはエリア枠がなくなりますので、旅費の問題などを国に帰ったら話し合ってくださいと思います。次に子供達を送るeメールの回数について(週2回のくりがあったと思いますが)意見を頂きたいと思います。TSIEではeメール及び電話はホームシックを招くので禁止しています。リーダーが学校に報告します。問題は親がメールをしたがることです。派遣中の情報を多くいれると帰ってから児童が話すことがなくなるのも禁止する1つの理由です。

次に個々のスケジュール変更についてですが、変更調整はお互いの合意があっても必ずISSEを通して行って下さい。又、フォームNO3とNO4は問題が発生した時、重要な書面となります。必ず提出して下さい。次に、児童を派遣する時は必ずその児童に日記をつける義務を与えて下さい。それと、日本は交流が決定すると必ず、必要な情報を相手に送りますが相手からこうした情報がなかなかこない場合があります。相手にできるだけ早く返事をするようにして頂きたいと思います。

それでは次回開催について発表します。次回はアメリカ・シンシナティで開催です。皆さんアメリカで再会しましょう。

以上についてカンファレンスで話し合われました。

学校給食(ランチ)後、西浦南小学校に移動してトンボ玉・箸置きの手芸教室が行われ、暑さも忘れて各々作品づくりに没頭しました。

7月16日(金)ー第4日ー

トヨタ自動車工場見学と豊田市美術館の見学でした。様子は別の機会に報告します。

7月17日(土)ー第5日ー

梅雨も終わり、快晴の中、知多半島半周のドライブを楽しみました。盛田酒造からさかな広場、新美南吉記念館と廻り知多半島の自然文化を堪能しました。夜はJホテルにてフェアウエルパーティです。終了証の贈呈後、サプライズとして都築副会長にベグ会長からプレゼントがあり都築副会長はおそらく2年前、コス



タリカで私がカンファレンスを誘致して以来の2年間の長かった準備期間のことが頭をよぎり感無量だと思っています。今回のカンファレンス開催は都築副会長なしでは実現できなかったと思います。本当にご苦労さまでした。2次会は片岡市長さんと一緒にカラオケのタベです。1年間の準備委員会を通してTSIEスタッフのこんな

楽しい、素晴らしい笑顔は初めて見ました。



7月18日(日) - 第6日 -

希望者を募って京都旅行です。祇園祭山鉾巡行が前日に終わったばかりの京都是人の熱気と盆地特有のうだるような暑さの中、金閣寺から八坂神社、祇園、清水寺から高台寺方面への散策でダイエットにはもってこいの行程でした。慈照寺(銀閣寺)の東求堂が大好きな私にとって金閣寺の良さはベヴさん達、外国の皆さま



んほどわかりませんが、回遊式の庭の木陰での清涼感は極楽浄土を彷彿させてくれます。時期外れの鶯の鳴き声も手伝って京都らしさを感じました。あっという間のカンファレンスはTSIEスタッフの素晴らしさを再発見する機会を私に与えてくれました。只、今回のカンファレンス開催で大変残念に思ったこと

が二点あります。一つは愛知県国際交流協会のTSIEへの対応です。カンファレンスを開催するにあたって今回は鈴木美津子さんというプロの同時通訳を依頼しましたが、通訳の件で愛知県国際交流協会に紹介して頂こうとして打合せに出向きましたが、民間団体へのボランティア通訳の派遣はできないとケンモホロロに断られました。誰もボランティアを派遣して欲しいと頼んでいません。通訳のことを何も知らない私にプロの通訳会社を紹介して欲しいと彙をもつかむ気持ちでお願いに出向いたつもりですが、あっさり玄関払いされました。そんな愛知県国際交流協会からこの原稿執筆中に上海万博参加者募集の案内が届きました。親方日の丸に呆れます。もう一つは、常滑市の教育関係者に対してです。教育に携わる皆さんにカンファレンスを常滑で開催した意味を理解して頂きたいと思います。大部分の先生は「私は国際交流には興味がない」というかも知れません。価値観の違いがありますから止むを得ませんが、もっとTSIEを活用して空港のある街に相應しい学校にして頂けたらと思います。積極的に会議に出席して頂けなかったのが残念でなりません。どんな形でもよかったので教育委員会や小中学校の先生方は会議に出席して意見交換をして頂きたかったと思います。私達は、TSIEと教育委員会や学校、そして先生方との相即不

離をこのカンファレンスで確立出来たらどんなに将来の為になるかと考えていました。最終日の西浦北小学校の会議で私が一言も発言しなかった理由はここにあります。

最後に今回のカンファレンスで TSIE のスタッフの国際交流事業に対する情熱には敬服致しました。特に都築副会長、平岡副会長、土居副会長、片山副会長、澤田 ISSE 委員長、尾崎委員、東委員、永井委員、竹内委員、藤田委員、山本委員、野々部委員、多くの準備委員会の皆様方、そして忘れてはならないのは柴山



裕子前副会長と下村紀江前事務局長の献身的な協力であったと思います。カンファレンスに携わった TSIE の全てのスタッフと出席頂きました ISSE の皆さんに改めて感謝と敬意の気持ちを伝えます。みなさん本当に有難うございました。これまでの 15 年間で出会った全ての人に感謝をこめて・・・・・・・・・・・・・・・・

